

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援 泉北びよんびよん教室			
○保護者評価実施期間	2025年 11 月 1 日		～	2024年 12 月 15 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数)	40
○従業者評価実施期間	2025年 11 月 1 日		～	2024年 12 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 1 月 6 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	難聴児の専門療育機関が地域にあること（特に軽度～中度の難聴児と保護者にとって必要な存在であるということが改めて実感できた）	個々の状況にはよるが、地域の小学校に在籍している児が多く、健聴の児とともに成長し、自分が望む進路に進む力をつけてもらうことを意識している。自分で考えて発信していきたいという気持ちとそれができる言語力をつけるような取組を行っている。	親不在の子どもたちだけの仲間づくりの行事など子どもの精神的な成長を促す取り組みを充実させていく。
2	個別支援が充実していること	個々の児に合わせた支援プログラムを組み、一人ひとりの児に寄り添ったスピードや対応で療育を行うことを意識している。	保護者とのコミュニケーション 学校での様子（集団適応）の把握 個別支援計画の充実（本当にその児にあった計画になっているか）
3	毎回、保護者と顔を合わすことができること	短時間でも保護者にその日の児の様子を伝えて、伺って、情報共有や保護者の思いを確認している。学校での様子や友達とのコミュニケーションなど就学期ならではの様子などを把握していく。	話をする時間が十分とれないという声がある中で、話をしたい保護者としてしっかり話ができるように体制を工夫をしていく。具体的には申し出をしていただくことになるが、申し出しやすい工夫を考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども用の設備が不十分である。（トイレ・手洗いなど）	もともと大人の施設（ファインブラザ大阪）であるため。	施設改修や簡易設備の設置など検討していく。大阪府に協議を申し込むなどする。
2	個別支援の上、利用希望の児が多く、対応に追われ気味で打ち合わせや振り返りの時間が十分にとれないことがある。	保護者同伴の利用のため、保護者対応に時間をとっており、職員間の振り返りがどうしても少なくなる傾向にある。 個別支援が多いため、時間ごとに利用児が入れ替わるため、その都度の打ち合わせ・振り返りが時間的に困難な場合がある。	毎日は難しくとも、定期的に時間をとり職員間の情報共有・打ち合わせ・振り返りの時間を丁寧にとれるようにする。
3	事業所として地域の他の事業所・学校との交流が少ない	通所児の多くは地域の小学校に所属している人が多く、そもそもその必要性があるのかどうか疑問。重複障がいの児はほぼ100%他の事業所に通っており、そういった意味で個別のニーズがなかなか浮かび上がってこない。	保護者に具体的なニーズがあるかどうかを確認し、対応を考える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	障がい児通所支援 泉北びよんびよん教室
------	---------------------

公表日 年月日 2025.1.6

利用児童数 年月日 2024.11～12

回収数 40

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	40	0	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	39	1	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	38	1	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	40	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	39	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37	1	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37	1	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	34	3	0	2		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	17	2	7	12		地域の他の活動をする団体の児童との交流については保護者のニーズを確認して必要に応じた対応をします。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	38	1	0	1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38	1	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	31	5	1	2		個別に情報提供や相談に応じる活動は行っています。必要に応じて研修などの実施も検討します。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	38	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	3	1	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	40	0	0	0	※39：3重〇	3重〇をいただきありがとうございます。ご意見など遠慮なくいただければと思います。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	9	6	4	※7：兄弟への支援はあるのか分からないが、保護者向けの講演会勉強会はあるので左に丸を入れました。 ※28：少し年上の方がどのような進路を選び、どのような過ごし方をしているか知りたいです	就学児の保護者のご要望としては、難聴のあるお子さまの進路について知りたいというはあると思います。びよんびよん教室の卒業生やその保護者の話を聞く機会作り、お子さまの進路について情報提供や考えていただく機会を積極的に作っていきたくと考えています。

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	36	3	0	0		保護者からの相談や申し入れなどについてはどちらとも言えないという回答がありましたので、相談や申し入れを気軽にいただけるように保護者へ声かけしていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	39	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	7	0	10		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	40	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	4	2	9	※7：各マニュアルはあるとは思いますが、保護者への周知や説明はしているかわからない	訓練等は実施しています。各マニュアルの詳細よりも不足の事態における対応について安心していただけるように保護者への説明は必要かと思しますので、次年度の課題として取り組んでいきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	3	0	12		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1	1	7		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	2	0	11		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	40	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35	5	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	40	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
障がい児通所支援 泉北びよんびよん教室		2025 年 1 月 6 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	10	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	大阪府からの賃貸物件のため、改修などが簡単にはできない事情がある。出来る限りの対応をしてきたが、トイレの回収や幼児用の簡易トイレなどの設置を今後大阪府に相談してみる。	10：トイレが古く、特に冬場は冷たい。高学年の机とイスがない
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	1	10：限られた中で子どもに適した部屋を使っている個別の部屋は他の児童がつかっていない限り、職員対応のもと子どもが活用することは可能である。	10：クールダウン出来るような部屋はない
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	職員間の情報共有をさらに進めていく	4：全ての職員に細かい目標設定が届いているかわからない
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	4：会議の議事録を活用している	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1		第三者評価は実施していません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	0	研修については今後引き続き充実させていく。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	4：集団活用は特にチームで行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0		

援 の 提 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	1	5：個別で担当している利用者に対しては他職員に相談し助言を求めている 個人情報によらない業務打ち合わせについては職員専用のグループラインなどを活用し、効率的に実施する。	10：個別支援が主なため、毎回は行っていない
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	2	5：個別で担当している利用者に対しては他職員に相談し助言を求めている 9：当日出来ない時は後日話す 10：個別支援が主なため、毎回は行っていない	4：多忙で振り返りが不十分なこともある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	4：記録は充実させている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	2	がないよう工夫はしている。 主な支援領域である「言語・コミュニケーション」を主として実施しているが、その中において基本活動を生かす取り組みを行っている。	10：支援内容は限定されている
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	1	5：入学時などの情報共有はあるが、日々の細かいことは本人や保護者より聞き取りしている 9：学校の様子は保護者に聞く 訪問や学校での様子を確認したほうが良いと判断した場合は学校訪問などを行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	卒園から就学への橋渡しの役割は要望に応じて積極的に行っており、また必要と考える児については保護者に個別に助言なども行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	3	今のところそのような児はいない。（中学以降は卒業していただいている）	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4	堺市の委託事業で何度か事業所に来ていただき、助言していただいた。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	多くの児が地域の小学校に通っており、そういった機会に対する要望などはなかった。今後、そういったニーズがあれば検討していきたい。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	3	5：教室の保護者会はないが両親教室を行い交流の場を設けている	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7	放デイは個別支援が主のため、事業所の行事などはあまりなくこれまで実施してこなかった。ファインプラザの行事に参加するなどできることを検討していきたい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	9：服薬やてんかん等は把握している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	2	5：保護者より聞き取りしながら対応している 9：保護者からの聞き取りを対応 10：親への聞き取りのみ	食事やおやつを提供を行っていないので、対応の必要性が低い。行事の際も保護者同伴での利用なので保護者に確認することで対応可能と考えている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	法人にて法定の虐待防止研修を実施しており、それに参加している。ニュースになるような虐待案件が他機関で発生した場合は、注意喚起の意味も込めて情報提供を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	6	2：身体拘束を行うことがない（療育の性質上） 5：身体拘束を行う機会がない 7：身体拘束は行っていない 9：身体拘束は行っていない。 10：身体拘束は行っていない	身体拘束を行っていない、療育の性質上必要ない、という意見が多いが、そういった思い込みを払拭するために研修などは継続して実施していきたい。